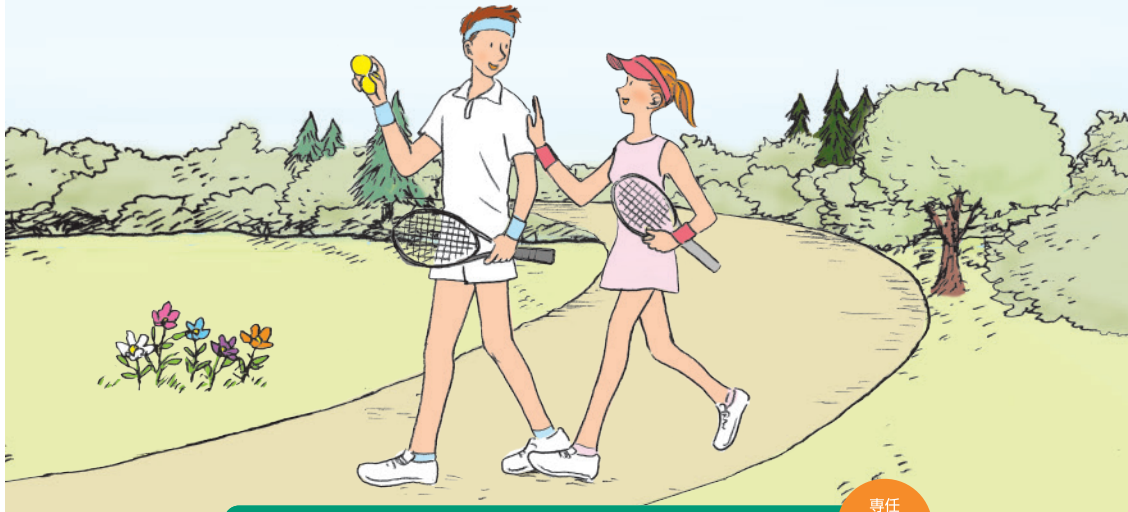
医薬品リスク管理計画
(RMP)

デュピクセント®
自己注射のためのガイドブック

監修 桜仁会いがらし皮膚科東五反田 院長 五十嵐 敦之 先生



デュピクセント®の操作方法と医療費助成制度へのご質問は、
デュピクセント®相談室までお問い合わせください

専任スタッフが対応します

デュピクセント®相談室

フリーダイヤル 0120-50-4970
ゴー ヨクナレ

1 操作方法へのご質問
24時間365日

2 医療費助成制度へのご質問
平日・土(日・祝休み) 9:00～21:00

※2でご提供するサービスは医療費助成制度をもととした医療費の目安をご案内するもので、医療行為や治療内容に関するご相談に対応するものではありません。また、医療費助成については自治体ごとに異なりますので、お住まいの市区町村へお問い合わせください。
※デュピクセント®相談室では、応対品質の向上を目的として通話を録音しています。あらかじめご了承ください。

製造販売元：サノフィ株式会社
〒163-1488
東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

販売提携：リジェネロン・ジャパン株式会社
〒105-5518
東京都港区虎ノ門二丁目6番1号

PV.DUP.RMP.25.041
2025年8月作成

sanofi | REGENERON

はじめに

このガイドブックでは、患者さんご自身またはご家族・介助者の方が「**デュピクセント®皮下注300mgペン**」、「**デュピクセント®皮下注200mgペン**」、「**デュピクセント®皮下注300mgシリンジ**」及び「**デュピクセント®皮下注200mgシリンジ**」を、安全に自己注射するための方法をご紹介します。

デュピクセント®の注射は、まず最初に医師や看護師の指導のもとに医療機関で練習します。そして注射が正しくできるようになったことを医師や看護師に確認してもらい、許可が出てから自己注射に移行します。

自己注射について分からないことや不安なことがあれば、いつでも主治医や看護師に相談しましょう。操作方法と医療費制度に関するご質問は、デュピクセント®相談室（▶表紙を参照）に相談することもできます。

自己注射に際しては十分な体調管理も大切です。何か気になる症状があれば、速やかに主治医に連絡してください。

目 次

300mgペン 200mgペン

デュピクセント®使用時の注意点 …… P3

300mgペン

注射のスケジュール …… P4
医療機関から受け取るもの …… P5
注射器の保管の仕方 …… P5
注射前の準備 …… P6
注射する部位 …… P7
注射の方法 …… P8

200mgペン

注射のスケジュール …… P10
医療機関から受け取るもの …… P10
注射器の保管の仕方 …… P11
注射前の準備 …… P12
注射する部位 …… P13
注射の方法 …… P14

300mgペン 200mgペン

注射器の廃棄方法 …… P16

300mgシリンジ 200mgシリンジ

デュピクセント®使用時の注意点 …… P17

300mgシリンジ

注射のスケジュール …… P18
医療機関から受け取るもの …… P19
注射器の保管の仕方 …… P19
注射前の準備 …… P20
注射する部位 …… P21
注射の方法（補助具なし） …… P22
注射の方法（補助具あり） …… P24

200mgシリンジ

注射のスケジュール …… P26
医療機関から受け取るもの …… P26
注射器の保管の仕方 …… P27
注射前の準備 …… P28
注射する部位 …… P29
注射の方法 …… P30

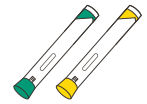
300mgシリンジ 200mgシリンジ

注射器の廃棄方法 …… P32

共 通

治療日誌への記入について …… P33
よくあるご質問 …… P34

デュピクセント®使用時の注意点



〈 アレルギー性疾患をお持ちの方への注意点 〉

- デュピクセント®で治療中の疾患以外に、他のアレルギー性疾患及び2型炎症性疾患（アトピー性皮膚炎、結節性痒疹、蕁麻疹、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、慢性副鼻腔炎など）を合併している場合は、必ずデュピクセント®の治療について合併するアレルギー性疾患を担当する医師に相談してください。
- 合併しているアレルギー性疾患の症状悪化を防ぐため、処方されているその疾患の治療薬を自己判断で減量、中止しないでください。

〈 デュピクセント®投与時の注意点 〉

- デュピクセント®は寄生虫に対する免疫反応を弱める可能性があります。寄生虫感染の可能性がある方は投与開始前に主治医にご相談ください。
- デュピクセント®投与中に、血中の好酸球数が増えることがあります。下記の症状がみられたら、主治医に相談してください。

  主な症状：発疹、むくみ、咳、発熱、だるさ、息切れ、呼吸困難、呼吸時に「ゼーゼー」音がする、血痰（血液の混じった痰）、動悸、息苦しさ、手足のしびれ、麻痺（動きが悪くなる）など

〈 デュピクセント®以外に処方されている併用薬について 〉

- 併用薬については、自己判断で中止せず、主治医の指示通りに使用してください。

  気管支喘息：吸入または経口ステロイド薬、その他の長期管理薬（長時間作用性β_2刺激薬、ロイコトリエン受容体拮抗薬など）
  慢性閉塞性肺疾患：吸入ステロイド薬、長期管理薬など
  アトピー性皮膚炎、結節性痒疹：経口ステロイド薬、外用剤など
  特発性の慢性蕁麻疹：抗ヒスタミン薬など
  鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎：経口ステロイド薬など

〈 発現する可能性のある副作用とその症状について 〉

過敏症反応

デュピクセント®の投与により、過敏症反応が現れることがあります。下記の症状がみられたら、投与を中止し速やかに主治医に相談してください。

主な症状：ふらつき感、息苦しさ、心拍数の上昇、めまい、嘔気、嘔吐、皮膚のかゆみや赤み、関節痛、発熱　など

※これらの症状がみられた場合には、次の受診日を待たずに、速やかに受診してください。
※これらの副作用は注射直後だけに起こるとは限りません。

その他の副作用

以下の副作用が現れることがあります。症状が現れた場合には、速やかに主治医または看護師、薬剤師にお伝えください。

- 注射部位反応：デュピクセント®を注射した部位に、発疹や腫れ、かゆみなどの症状がみられる場合があります。
- ヘルペス感染：口周りや唇に発疹などがみられる場合があります。
- 結膜炎：目やまぶたの炎症症状（赤み、腫れ、かゆみ、乾燥など）がみられる場合があります。

※上記以外でも、異常が現れたり何らかの症状が悪化した場合は、副作用の可能性がありますので、必ず主治医に相談し、主治医の指示に従ってください。

注射のスケジュール

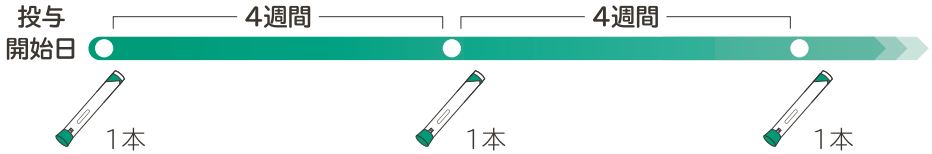
〈 気管支喘息、アトピー性皮膚炎及び特発性の慢性蕁麻疹（成人及び体重60kg以上の小児）、結節性痒疹の場合 〉

■ デュピクセント®は投与開始日のみ、2本を皮下注射します。
その後は2週間に1回、1本を皮下注射します。



〈 アトピー性皮膚炎（体重15kg以上30kg未満の小児）の場合 〉

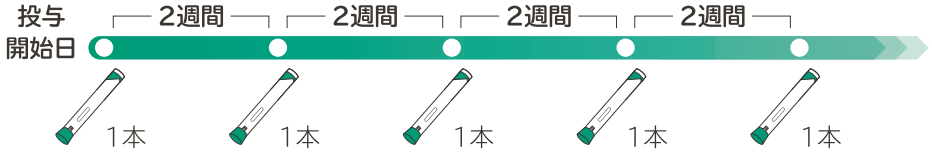
■ デュピクセント®は4週間に1回、1本を皮下注射します。



体重30kg以上60kg未満あるいは5kg以上15kg未満の小児に投与する場合については、200mgシリンジの項(P20)を参照ください。

〈 鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎の場合 〉

■ デュピクセント®は2週間に1回、1本を皮下注射します。症状が安定した後は、主治医の判断によって、4週間に1回、1本へ変更することがあります。
必ず主治医の指示に従ってください。



症状安定後は、主治医の判断のもとに、2週間隔または4週間隔で投与します。必ず主治医の指示に従ってください。

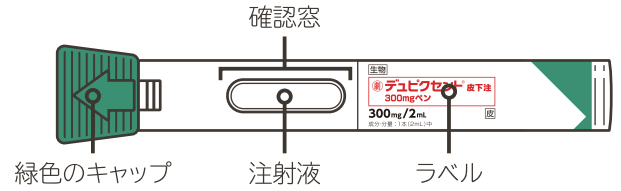
〈 慢性閉塞性肺疾患の場合 〉

■ デュピクセント®は2週間に1回、1本を皮下注射します。



医療機関から受け取るもの

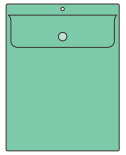
❶ デュピクセント®注射器



❷ 消毒用アルコール綿



❸ 廃棄用容器

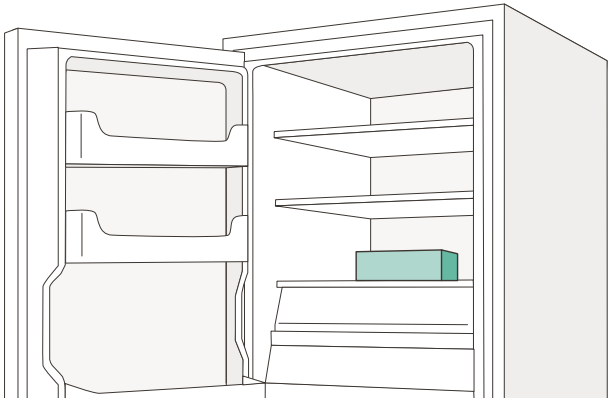


❹ 治療日誌



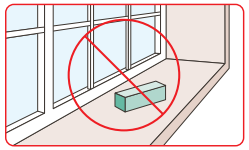
注射器の保管の仕方

■ 帰宅後は、デュピクセント®を
箱に入れたまますぐに冷蔵庫（2～8℃）※で保管してください。

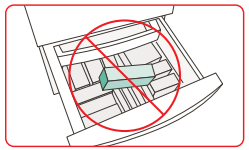


※注射液が凍ってしまう可能性があるので、
冷気の吹き出し口付近には、保管しないでください。

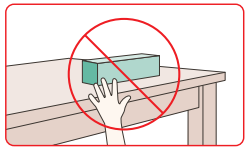
⚠ 注意
- 注射器を振らないでください。
- 注射器を温めないでください。
- 注射器を凍らせないでください。



高温、直射日光にさらさないでください。



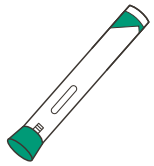
冷凍庫には入れないでください。



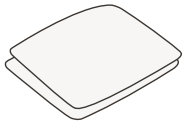
お子さんの手の届かないところに置いてください。

注射前の準備

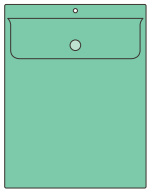
① 必要なものを準備する



デュピクセント®
注射器



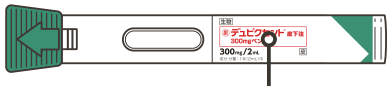
消毒用
アルコール綿



廃棄用容器

② ラベルの確認

「デュピクセント®皮下注300mg ペン」であることを確認します。



ラベルを確認する

③ 使用期限の確認

使用期限が切れていないことを確認します。



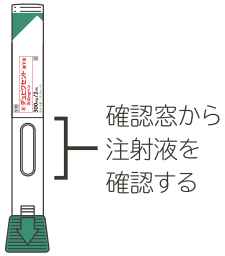
使用期限

⚠ 注意

- 使用期限が切れている場合は、使用しないでください。

④ 薬液の確認

注射器の確認窓から、注射液が無色または薄い黄色で、濁っていないことを確認します。注射液中に気泡が見られる場合がありますが、問題ありません。



確認窓から
注射液を
確認する

⚠ 注意

- 注射液が本来の色（無色か薄い黄色）と違う、または濁っている場合、注射液中に粒子などが見られる場合は使用しないでください。
- 確認窓が黄色い場合は、使用しないでください。

⑤ 室温に戻す

注射器を平らな場所に置き、室温に戻しておきます。
45分以上室温に置いてから注射します。



⚠ 注意

- 注射器は温めず、直射日光を避け室温に戻してください。
- 冷蔵庫から出した後は長時間放置しないでください。

注射する部位

■ 注射に適した部位は以下の3ヵ所です。

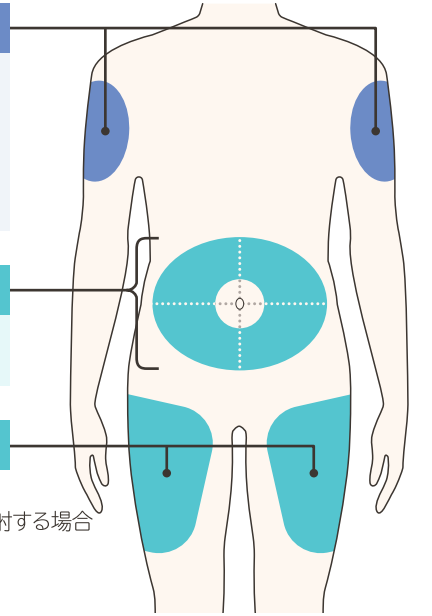
上腕部（二の腕）の外側

保護者が患者さんに注射する場合は、上腕部（二の腕）に注射することも可能です。
患者さんご自身が注射する場合は、この部位は避けてください。

へそ周り以外の腹部

へその周り5cmは避けて注射してください。

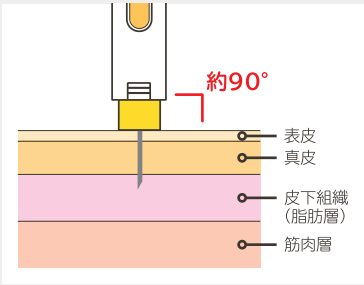
太もも



- 患者さんご自身、または保護者が患者さんに注射する場合
- 保護者が患者さんに注射する場合
  （患者さんご自身が注射する場合は避ける）

⚠ 注意

- 衣服の上から注射しないでください。
- 12歳以上の子どもが投与する場合は大人の監視のもとに投与してください。
- 12歳未満の子どもに投与する場合は、保護者が投与してください。
- 皮膚及び皮下組織の薄い患者（例えば2歳未満の患者）に投与する際には、ペン製剤は用いず、シリンジ製剤を用いてください。
- アトピー性皮膚炎の症状が重い部位、痛みがある部位、けがをしている部位、打撲や傷跡のある部位は避けてください。
- 前回注射した部位とは違う部位に注射してください。
- 腹部に注射する場合は、上図のように上下左右で4ヵ所に分けて前回の注射とは別の箇所を選んで注射してください。



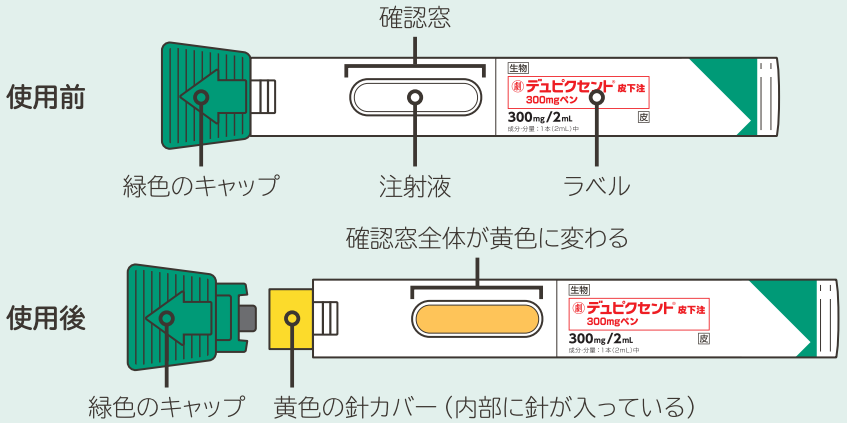
「皮下注射」とは？

デュピクセント®は皮下注射という方法で注射します。

- 皮膚の下にある皮下組織（脂肪層）に注射します。
- 柔らかく少したるみがあるような部位を選ぶと注射しやすいでしょう。

注射の方法

各部の名称



① 消毒する

両手を石鹸でよく洗い、清潔なタオルで拭きます。消毒用アルコール綿で注射する部位を消毒し、乾かします。

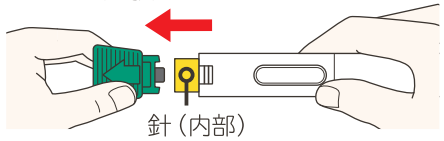


注意

- 消毒後は注射部位に触れたり、息を吹きかけたりしないでください。

② 緑色のキャップを外す

緑色のキャップをねじらず、まっすぐに引っ張る



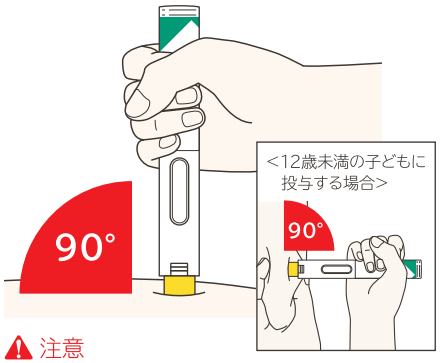
- 注射の準備ができるまで、キャップは外さないでください。
- キャップを外す際は、ねじらずにまっすぐ引っ張って外してください。
- 指で黄色の針カバーを触ったり、押したりしないでください。針が内部に入っています。

注意

- 一度外したキャップは元に戻さないでください。

③ 注射部位に当てる

注射器の黄色の針カバーを注射部位に当て、確認窓が見えるように持ってください。
このとき皮膚に対して約90度の角度となるようにしてください。

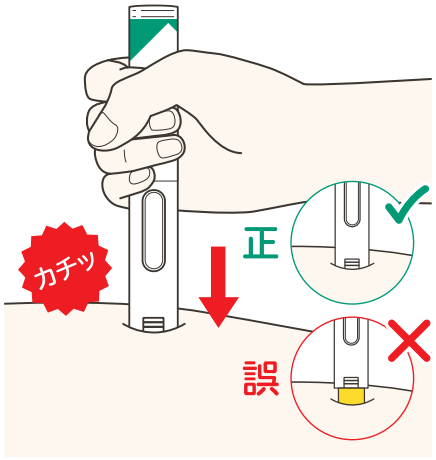


注意

- 指で黄色の針カバーを触ったり、押したりしないでください。針が内部に入っています。
- **12歳未満の子どもに投与する場合は皮膚をつまんだ状態で投与し、注入完了するまでつまんだ手を離さないでください。**

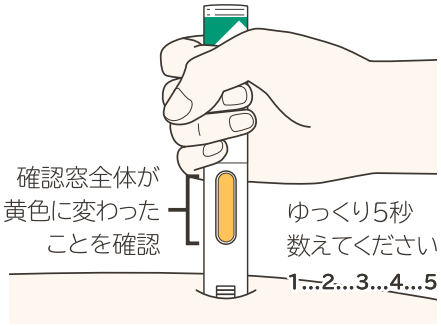
④ 押し当てる

黄色の針カバーが見えなくなるまで、皮膚にしっかりと押し当て、そのまま動かさないでください。
注入が始まると、「カチッ」と音がして、確認窓が黄色に変わりはじめます。
注入には最長15秒かかります。



⑤ しっかりと押し当てたままにする

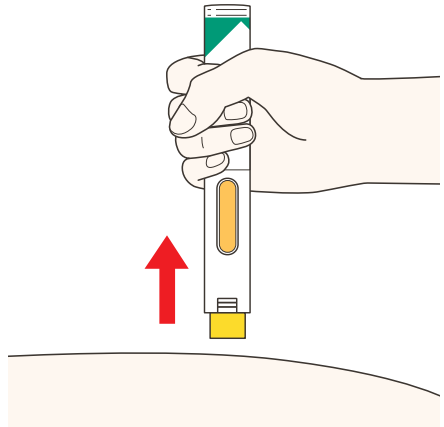
皮膚にしっかりと押し当て続けます。
確認窓全体が黄色に変わったことを確認できたら、ゆっくりと5秒数えてください。注射器を皮膚から離したら、注入は完了です。



- 再び「カチッ」と音が聞こえることがあります。
- 確認窓全体が黄色にならない場合は、皮膚から離し、医師や看護師に連絡し、医師の許可なく2本目の注射はしないでください。

⑥ 皮膚から離す

注射器をまっすぐに持ち上げ、皮膚から離してください。
出血がある場合は、消毒用アルコール綿で軽く押さえてください。



注意

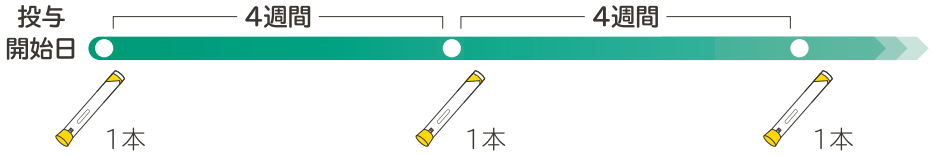
- 注射後に皮膚をこすらないでください。

注射のスケジュール

〈 アトピー性皮膚炎 〉

生後6カ月以上の小児は、体重に応じて皮下注射します。

■ **5kg以上15kg未満の場合**：デュピクセント®は4週間に1回、1本を皮下注射します。



〈 アトピー性皮膚炎及び特発性の慢性蕁麻疹 〉

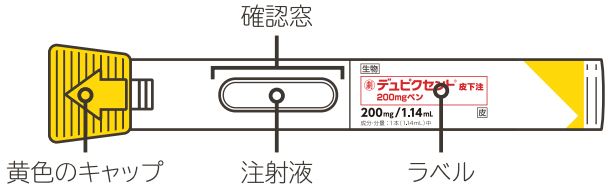
■ **30kg以上60kg未満**：デュピクセント®は投与開始日のみ2本を皮下注射します。その後は2週間に1回、1本を皮下注射します。



体重15kg以上30kg未満あるいは体重60kg以上の小児に投与する場合については、300mgペン又は300mgシリンジの項(p.4又はp.18)を参照ください。

医療機関から受け取るもの

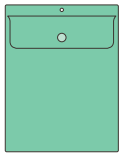
① デュピクセント®注射器



② 消毒用アルコール綿



③ 廃棄用容器



④ 治療日誌

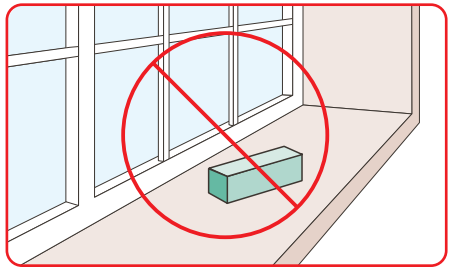


注射器の保管の仕方

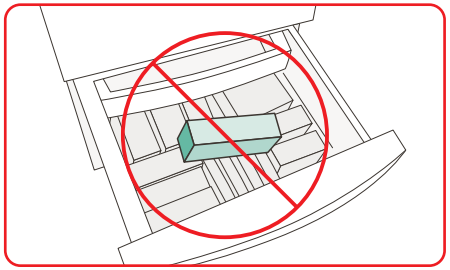
■ 帰宅後は、デュピクセント®を**箱に入れたまますぐに冷蔵庫**（2～8℃）※で保管してください。



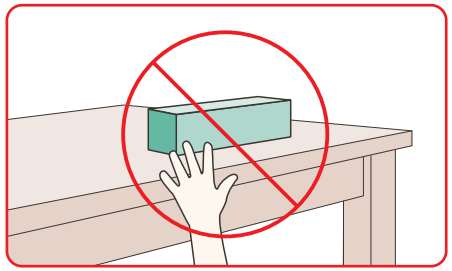
※注射液が凍ってしまう可能性があるので、冷気の吹き出し口付近には、保管しないでください。



高温、直射日光にさらさないでください。



冷凍庫には入れないでください。

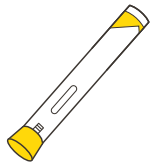


お子さんの手の届かないところに置いてください。

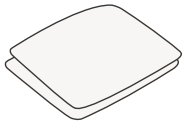
⚠ 注意
- 注射器を振らないでください。
- 注射器を温めないでください。
- 注射器を凍らせないでください。

注射前の準備

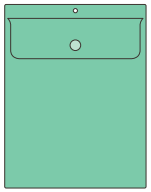
① 必要なものを準備する



デュピクセント®
注射器



消毒用
アルコール綿



廃棄用容器

② ラベルの確認

「デュピクセント®皮下注200mg ペン」であることを確認します。



ラベルを確認する

③ 使用期限の確認

使用期限が切れていないことを確認します。



使用期限

⚠ 注意

- 使用期限が切れている場合は、使用しないでください。

④ 薬液の確認

注射器の確認窓から、注射液が無色または薄い黄色で、濁っていないことを確認します。注射液中に気泡が見られる場合がありますが、問題ありません。



確認窓から
注射液を
確認する

⚠ 注意

- 注射液が本来の色（無色か薄い黄色）と違う、または濁っている場合、注射液中に粒子などが見られる場合は使用しないでください。
- 確認窓が黄色い場合は、使用しないでください。

⑤ 室温に戻す

注射器を平らな場所に置き、室温に戻しておきます。
30分以上室温に置いてから注射します。



⚠ 注意

- 注射器は温めず、直射日光を避け室温に戻してください。
- 冷蔵庫から出した後は長時間放置しないでください。

注射する部位

■ 注射に適した部位は以下の3ヵ所です。

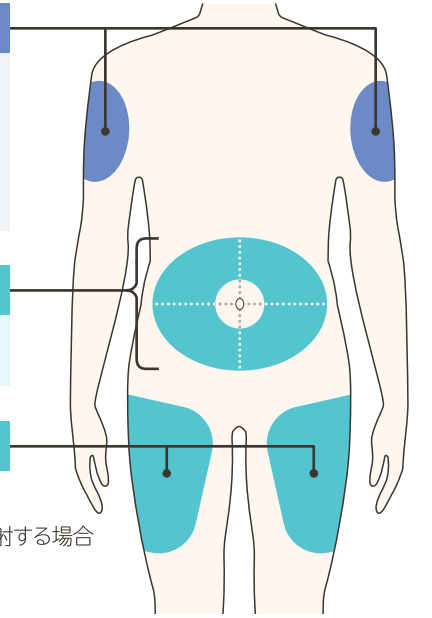
上腕部（二の腕）の外側

保護者が患者さんに注射する場合は、上腕部（二の腕）に注射することも可能です。
患者さんご自身が注射する場合は、この部位は避けてください。

へそ周り以外の腹部

へその周り5cmは避けて注射してください。

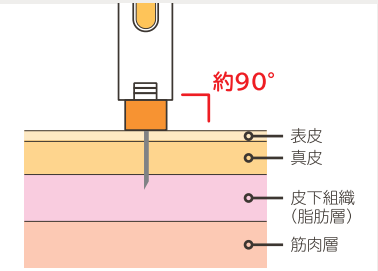
太もも



患者さんご自身、または保護者が患者さんに注射する場合
保護者が患者さんに注射する場合
（患者さんご自身が注射する場合は避ける）

⚠ 注意

- 衣服の上から注射しないでください。
- 12歳以上の子どもが投与する場合は大人の監視のもとに投与してください。
- 12歳未満の子どもに投与する場合は、保護者が投与してください。
- 皮膚及び皮下組織の薄い患者（例えば2歳未満の患者）に投与する際にはペン製剤は用いず、シリンジ製剤を用いてください。
- アトピー性皮膚炎の症状が重い部位、痛みがある部位、けがをしている部位、打撲や傷跡のある部位は避けてください。
- 前回注射した部位とは違う部位に注射してください。
- 腹部に注射する場合は、上図のように上下左右で4ヵ所に分けて前回の注射とは別の箇所を選んで注射してください。



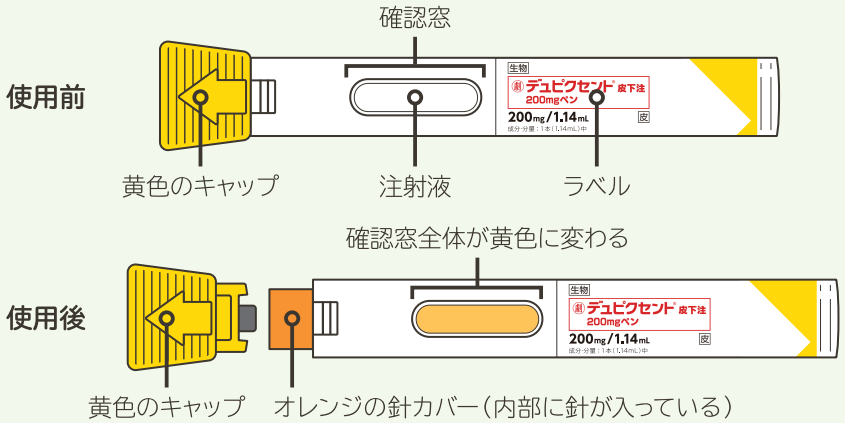
「皮下注射」とは？

デュピクセント®は皮下注射という方法で注射します。

- 皮膚の下にある皮下組織（脂肪層）に注射します。
- 柔らかく少したるみがあるような部位を選ぶと注射しやすいでしょう。

注射の方法

各部の名称



① 消毒する

両手を石鹸でよく洗い、清潔なタオルで拭きます。消毒用アルコール綿で注射する部位を消毒し、乾かします。

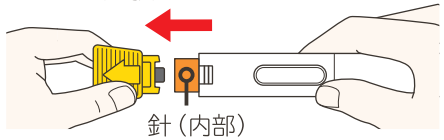


⚠ 注意

- 消毒後は注射部位に触れたり、息を吹きかけたりしないでください。

② 黄色のキャップを外す

黄色のキャップをねじらず、まっすぐに引っ張る



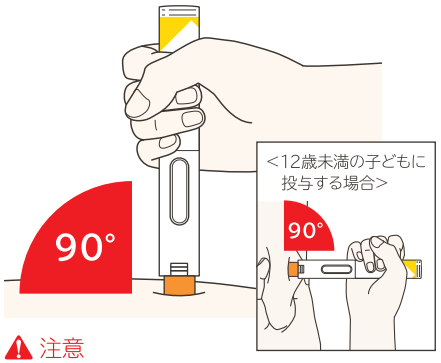
- 注射の準備ができるまで、キャップは外さないでください。
- キャップを外す際は、ねじらずにまっすぐ引っ張って外してください。
- 指でオレンジの針カバーを触ったり、押したりしないでください。針が内部に入っています。

⚠ 注意

- 一度外したキャップは元に戻さないでください。

③ 注射部位に当てる

注射器のオレンジの針カバーを注射部位に当て、確認窓が見えるように持ってください。
このとき皮膚に対して約90度の角度となるようにしてください。

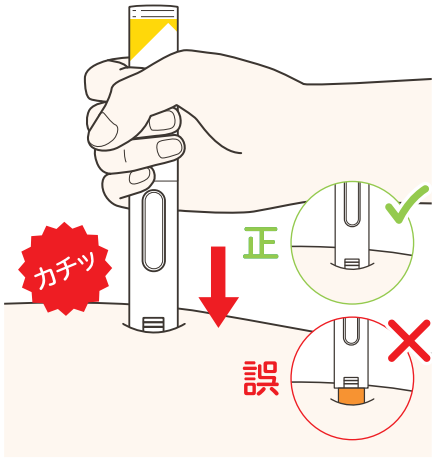


⚠ 注意

- 指でオレンジの針カバーを触ったり、押したりしないでください。針が内部に入っています。
- **12歳未満の子どもに投与する場合は皮膚をつまんだ状態で投与し、注入完了するまでつまんだ手を離さないでください。**

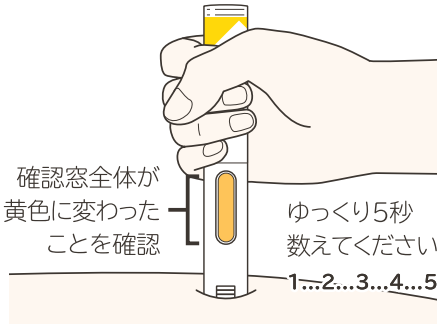
④ 押し当てる

オレンジの針カバーが見えなくなるまで、皮膚にしっかりと押し当て、そのまま動かさないでください。
注入が始まると、「カチッ」と音がして、確認窓が黄色に変わりはじめます。
注入には最長15秒かかります。



⑤ しっかりと押し当てたままにする

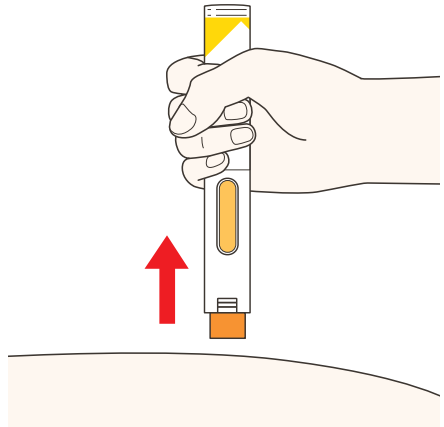
皮膚にしっかりと押し当て続けます。
確認窓全体が黄色に変わったことを確認できたら、ゆっくりと5秒数えてください。注射器を皮膚から離したら、注入は完了です。



- 再び「カチッ」と音が聞こえることがあります。
- 確認窓全体が黄色にならない場合は、皮膚から離し、医師や看護師に連絡し、医師の許可なく2本目の注射はしないでください。

⑥ 皮膚から離す

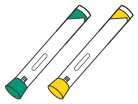
注射器をまっすぐに持ち上げ、皮膚から離してください。
出血がある場合は、消毒用アルコール綿で軽く押さえてください。



⚠ 注意

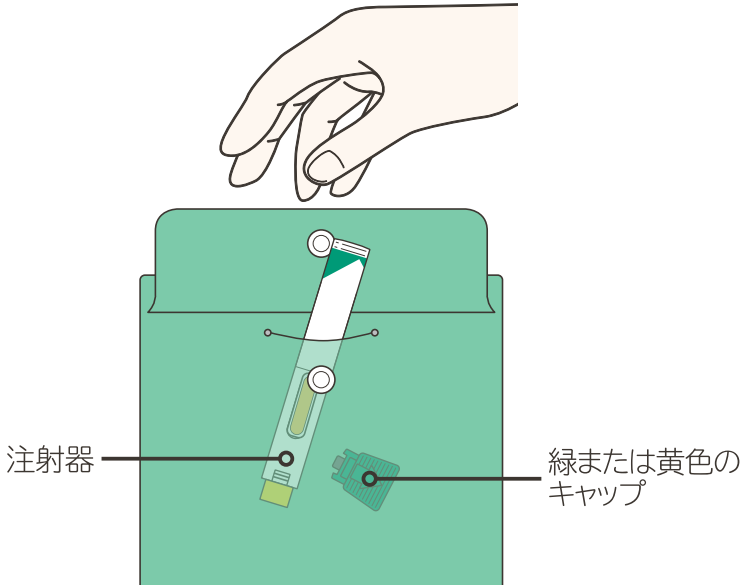
- 注射後に皮膚をこすらないでください。

注射器の廃棄方法



注射器とキャップの廃棄

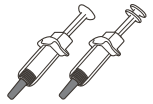
- 一度外したキャップは注射器に取り付けないでください。
- 使用済みの注射器とキャップは、使用後すぐに医療機関から提供された廃棄用容器に入れてください。
- 医療機関の指示に従って、医療廃棄物として廃棄してください。
家庭ごみとして捨てないでください。



⚠ 注意

- 廃棄用容器がない場合は、蓋つきのビンや缶などの穴のあかない固い容器でも代用できます。
- 使用済みの消毒用アルコール綿は、各市区町村の収集方法に従って家庭ごみとして捨ててください。
- 廃棄用容器は、お子さんの手の届かないところに保管してください。
- 廃棄用容器は再利用しないでください。

デュピクセント®使用時の注意点



〈 アレルギー性疾患をお持ちの方への注意点 〉

- デュピクセント®で治療中の疾患以外に、他のアレルギー性疾患及び2型炎症性疾患（アトピー性皮膚炎、結節性痒疹、蕁麻疹、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、慢性副鼻腔炎など）を合併している場合は、必ずデュピクセント®の治療について合併するアレルギー性疾患を担当する医師に相談してください。
- 合併しているアレルギー性疾患の症状悪化を防ぐため、処方されているその疾患の治療薬を自己判断で減量、中止しないでください。

〈 デュピクセント®投与時の注意点 〉

- デュピクセント®は寄生虫に対する免疫反応を弱める可能性があります。寄生虫感染の可能性がある方は投与開始前に主治医にご相談ください。
- デュピクセント®投与中に、血中の好酸球数が増えることがあります。下記の症状がみられたら、主治医に相談してください。

主な症状：発疹、むくみ、咳、発熱、だるさ、息切れ、呼吸困難、呼吸時に「ゼーゼー」音がする、血痰（血液の混じった痰）、動悸、息苦しさ、手足のしびれ、麻痺（動きが悪くなる）など

〈 デュピクセント®以外に処方されている併用薬について 〉

- 併用薬については、自己判断で中止せず、主治医の指示通りに使用してください。

気管支喘息：吸入または経口ステロイド薬、その他の長期管理薬（長時間作用性β_2刺激薬、ロイコトリエン受容体拮抗薬など）
慢性閉塞性肺疾患：吸入ステロイド薬、長期管理薬など
アトピー性皮膚炎、結節性痒疹：経口ステロイド薬、外用剤など
特発性の慢性蕁麻疹：抗ヒスタミン薬など
鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎：経口ステロイド薬など

〈 発現する可能性のある副作用とその症状について 〉

過敏症反応

デュピクセント®の投与により、過敏症反応が現れることがあります。下記の症状がみられたら、投与を中止し速やかに主治医に相談してください。

主な症状：ふらつき感、息苦しさ、心拍数の上昇、めまい、嘔気、嘔吐、皮膚のかゆみや赤み、関節痛、発熱　など

※これらの症状がみられた場合には、次の受診日を待たずに、速やかに受診してください。
※これらの副作用は注射直後だけに起こるとは限りません。

その他の副作用

以下の副作用が現れることがあります。症状が現れた場合には、速やかに主治医または看護師、薬剤師にお伝えください。

- 注射部位反応：デュピクセント®を注射した部位に、発疹や腫れ、かゆみなどの症状がみられる場合があります。
- ヘルペス感染：口周りや唇に発疹などがみられる場合があります。
- 結膜炎：目やまぶたの炎症症状（赤み、腫れ、かゆみ、乾燥など）がみられる場合があります。

※上記以外でも、異常が現れたり何らかの症状が悪化した場合は、副作用の可能性がありますので、必ず主治医に相談し、主治医の指示に従ってください。

注射のスケジュール

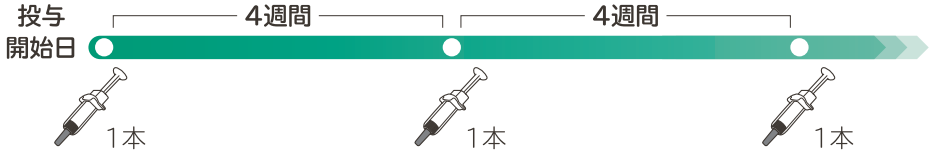
〈 気管支喘息、アトピー性皮膚炎及び特発性の慢性蕁麻疹（成人及び体重60kg以上の小児）、結節性痒疹の場合 〉

■ デュピクセント®は投与開始日のみ、2本を皮下注射します。
その後は2週間に1回、1本を皮下注射します。



〈 アトピー性皮膚炎（体重15kg以上30kg未満の小児）の場合 〉

■ デュピクセント®は4週間に1回、1本を皮下注射します。



体重30kg以上60kg未満あるいは5kg以上15kg未満の小児に投与する場合については、200mgシリンジの項(P20)を参照ください。

〈 鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎の場合 〉

■ デュピクセント®は2週間に1回、1本を皮下注射します。症状が安定した後は、主治医の判断によって、4週間に1回、1本へ変更することがあります。
必ず主治医の指示に従ってください。



症状安定後は、主治医の判断のもとに、2週間隔または4週間隔で投与します。必ず主治医の指示に従ってください。

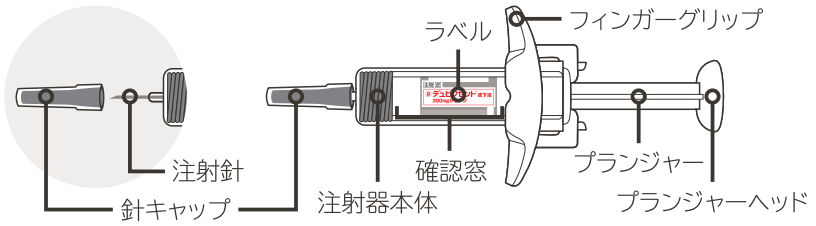
〈 慢性閉塞性肺疾患の場合 〉

■ デュピクセント®は2週間に1回、1本を皮下注射します。



医療機関から受け取るもの

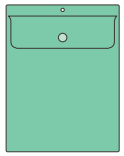
❶ デュピクセント®注射器



❷ 消毒用アルコール綿



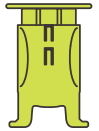
❸ 廃棄用容器



❹ 治療日誌



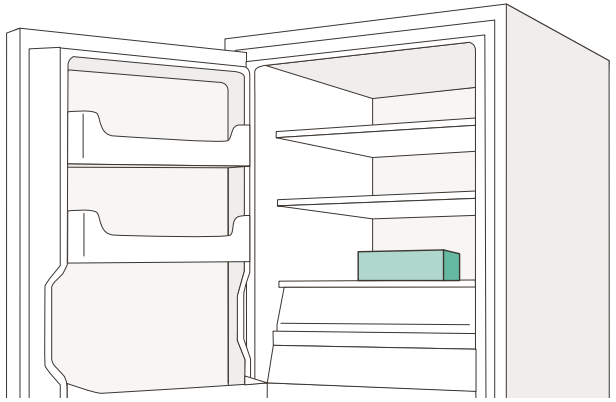
❺ 補助具※(マイデュピ)



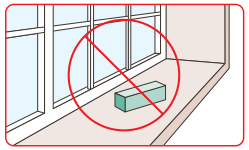
※希望された場合

注射器の保管の仕方

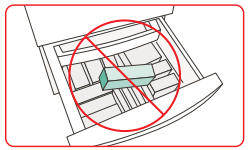
■ 帰宅後は、デュピクセント®を
箱に入れたまますぐに冷蔵庫（2～8℃）※で保管してください。



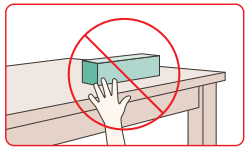
※注射液が凍ってしまう可能性があるので、
冷気の吹き出し口付近には、保管しないでください。



高温、直射日光にさらさないでください。



冷凍庫には入れないでください。



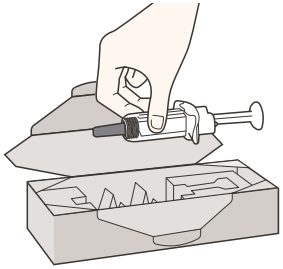
お子さんの手の届かないところに置いてください。

⚠ 注意
- 注射器を振らないでください。
- 注射器を温めないでください。
- 注射器を凍らせないでください。

注射前の準備

① 注射器を取り出す

箱を冷蔵庫から取り出し、
注射器本体を持ち、
箱から注射器を取り出します。



⚠ 注意

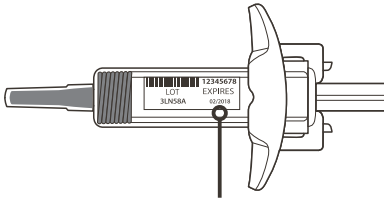
- 注射前の準備が整うまで、針キャップを外したり、プランジャーに触れたりしないでください。
- 固いところに落としたり、破損した注射器は使用しないでください。
- 針キャップが紛失している、またはしっかり取り付けられていない注射器は使用しないでください。

② 使用期限の確認、その他の準備

取り出したものが「デュピクセント®皮下注300mgシリンジ」であり、使用期限が切れていないことを確認します。

また注射に必要なものを用意します。

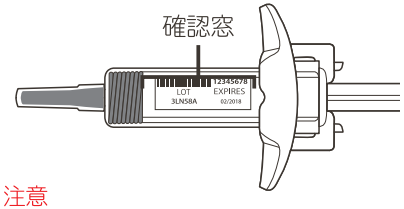
- ☐ 消毒用アルコール綿
- ☐ 廃棄用容器
- ☐ 補助具（ご使用される場合）



使用期限

③ 薬液の確認

注射器の確認窓から、注射液が無色または薄い黄色で、濁っていないことを確認します。注射液中に気泡が見られる場合がありますが、問題ありません。

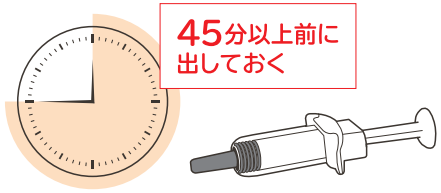


⚠ 注意

- 注射液が本来の色（無色か薄い黄色）と違う、または濁っている場合、注射液中に粒子などが見られる場合は使用しないでください。

④ 室温に戻す

注射器を平らな場所に置き、
室温に戻しておきます。
45分以上室温に置いてから注射します。



⚠ 注意

- 注射器は温めず、直射日光を避け室温に戻してください。
- 冷蔵庫から出した後は長時間放置しないでください。

注射する部位

■ 注射に適した部位は以下の3ヵ所です。

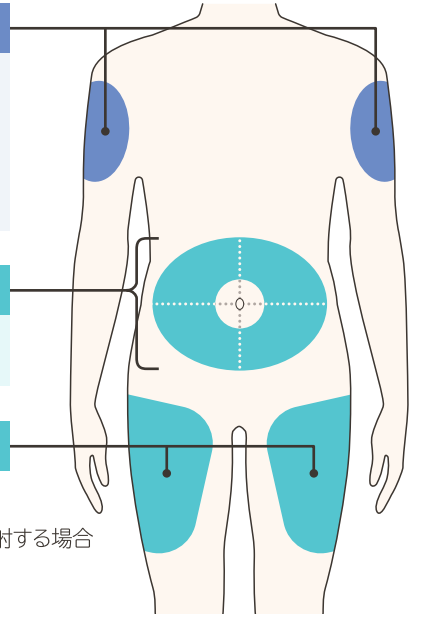
上腕部（二の腕）の外側

保護者が患者さんに注射する場合は、上腕部（二の腕）に注射することも可能です。
患者さんご自身が注射する場合は、この部位は避けてください。

へそ周り以外の腹部

へその周り5cmは避けて注射してください。

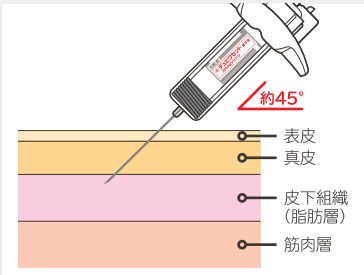
太もも



■ 患者さんご自身、または保護者が患者さんに注射する場合
■ 保護者が患者さんに注射する場合
（患者さんご自身が注射する場合は避ける）

⚠ 注意

- 衣服の上から注射しないでください。
- 12歳以上の子どもが投与する場合は大人の監視のもとに投与してください。
- 12歳未満の子どもに投与する場合は、保護者が投与してください。
- アトピー性皮膚炎の症状が重い部位、痛みがある部位、けがをしている部位、打撲や傷跡のある部位は避けてください。
- 前回注射した部位とは違う部位に注射してください。
- 腹部に注射する場合は、上図のように上下左右で4ヵ所に分けて前回の注射とは別の箇所を選んで注射してください。



「皮下注射」とは？

デュピクセント®は皮下注射という方法で注射します。

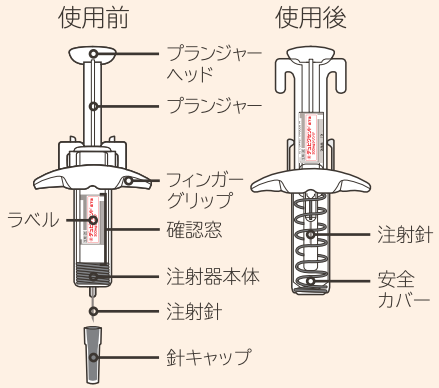
■ 皮膚の下にある皮下組織（脂肪層）に注射します。

■ 柔らかく少したるみがあるような部位を選ぶと注射しやすいでしょう。

注射の方法（補助具なし）



各部の名称

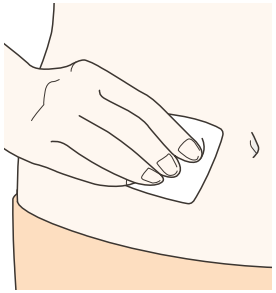


⚠ 注意

- プランジャーは絶対に後ろに引かないでください。

① 消毒する

両手を石鹸でよく洗い、清潔なタオルで拭きます。消毒用アルコール綿で注射する部位を消毒し、乾かします。

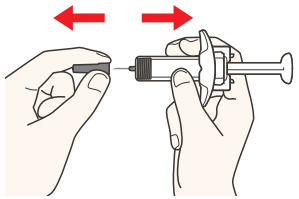


⚠ 注意

- 消毒後は注射部位に触れたり、息を吹きかけたりしないでください。

② 針キャップを外す

注射器本体の中央部分を持ち、針キャップを外します。

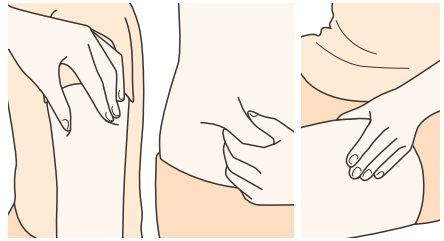


⚠ 注意

- 注射直前まで針キャップを外さないでください。
- 一度外した針キャップは再度取り付けないでください。
- 注射針には触れないようにしてください。
- 針キャップを外したら、針が他の物と接触しないようにし、素早く注射を行ってください。
- 注射器内に気泡が見られる場合がありますが、問題ありませんので気泡を取り除く必要はありません。

③ 皮膚をつまむ

注射針をしっかり挿入するために、注射する部位の皮膚をひだ状につまみます。



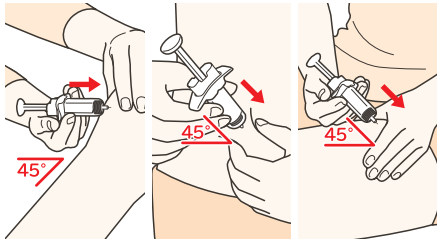
上腕部（二の腕）（ご家族のみ）　腹部　太もも

⚠ 注意

- 衣服の上から注射はしないでください。

④ 約45度の角度で注射針を挿入

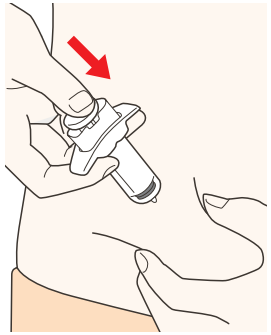
注射針をひだ状にした皮膚に約45度の角度で完全に挿入します。介助者が注射する場合、針を挿入してから、注射液を注入する前に、しびれがないか確認してください。しびれがある場合は針先を少し引いてください。



上腕部（二の腕）（ご家族のみ）　腹部　太もも

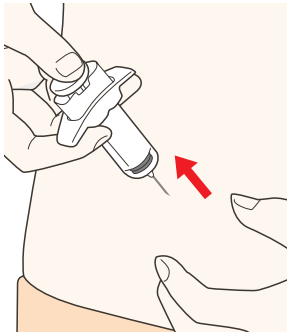
⑤ 注射液を注入する

皮膚をつまんでいる手を緩め、プランジャーヘッドを注射液がなくなるまでゆっくり押し込みます。注射の際に抵抗を感じても、問題はありません。引き戻すことなく、ゆっくり押してください。プランジャーヘッドは最後までしっかりと押し込んでください。



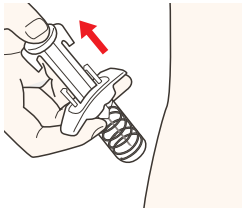
⑥ プランジャーヘッドを押したまま、注射針を抜く

プランジャーヘッドを押したまま、挿入したときと同じ角度（約45度）で、注射針を抜きます。



⑦ 注射後

注射針を抜いた後に、プランジャーヘッドを押していた指をゆっくりと緩めます。安全カバーがスライドして、注射針が安全カバーに覆われます。出血がある場合は、消毒用アルコール綿で注射部位を軽く押さえてください。

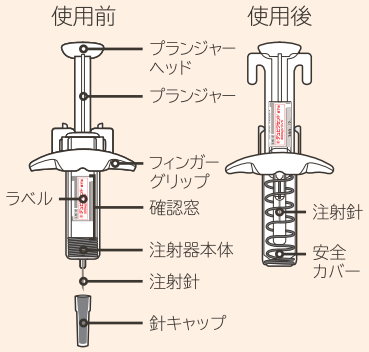


⚠ 注意

- 注射が終わった後も、針キャップは再度取り付けないでください。
- 注射後、注射部位をもんだり、こすったりしないでください。
- 注射器は再利用しないでください。

注射の方法（補助具あり）

各部の名称



⚠ 注意

- プランジャーは絶対に後ろに引かないでください。

❶ 消毒する

両手を石鹸でよく洗い、清潔なタオルで拭きます。消毒用アルコール綿で注射する部位を消毒し、乾かします。

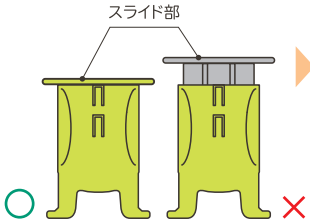


⚠ 注意

- 消毒後は注射部位に触れたり、息を吹きかけたりしないでください。

❷ 補助具のスライド部の位置を確認する

使用を始める前に、先端のスライド部が図の位置まで下がっていることを確認してください。

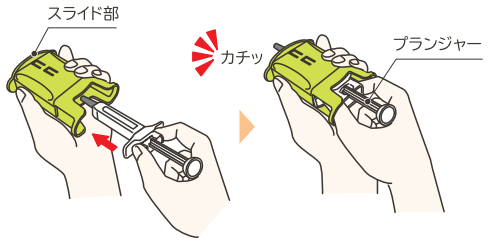


⚠ 注意

- 補助具の破損がみられるまたは動作に不具合がある場合は、補助具の使用を中止して、かかりつけの医療機関へ連絡してください。

❸ 補助具に注射器をセットする

補助具の後部から、注射器をカチッと音がするまでしっかり奥までさしこみ、セットしてください。

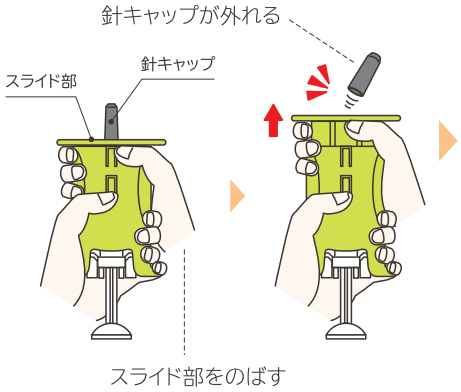


⚠ 注意

- 補助具のスライド部を触らないでください。
- 注射器のプランジャーを持たないでください。

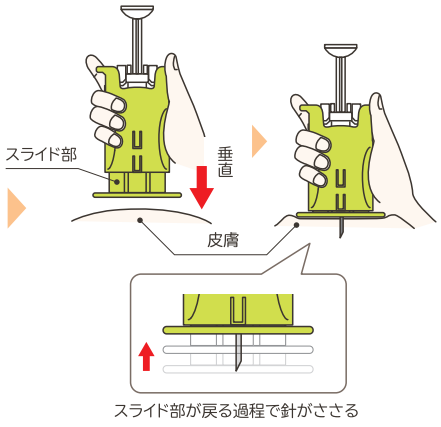
❹ 注射器の針キャップを外す

両手で補助具を持ち、スライド部をのばして、針キャップを外してください。



❺ 注射針を垂直にさす

補助具を持ち、注射針を皮膚に垂直にさします。

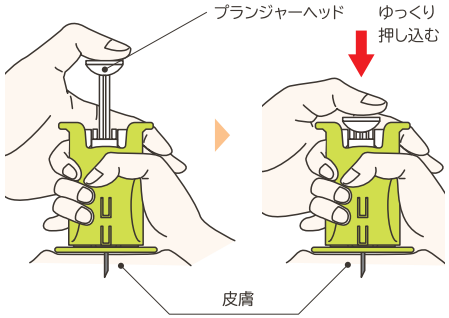


⚠ 注意

- スライド部に手が触れると、スライド部の動きの妨げになるので注意してください。

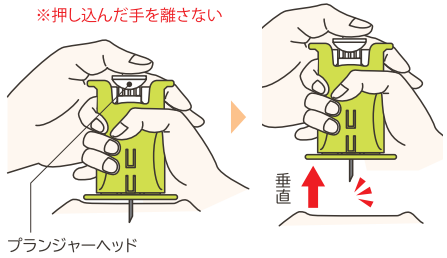
❻ 注射液を注入する

補助具を肌に押し付け、極力動かさないように固定します。固定できたら、反対の手で注射器のプランジャーヘッドをゆっくり押し込みます。プランジャーヘッドは最後までしっかりと押し込んでください。



❼ プランジャーヘッドを押したまま、注射針を抜く

注射液を注入後、プランジャーヘッドを押したまま、手を離さず、補助具ごと注射針を抜きます。

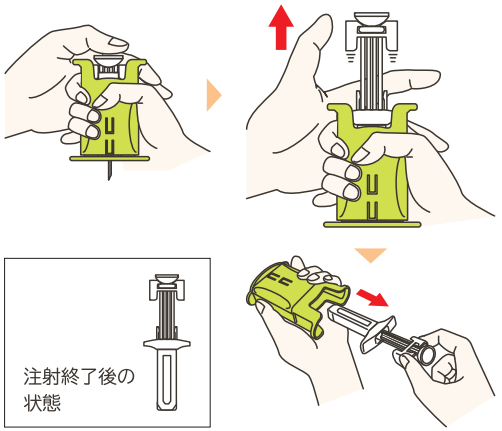


⚠ 注意

- 注射後、注射部位をもんだり、こすったりしないでください。
- 注射が終わった後も、針キャップは再度取り付けないでください。
- 注射器は再利用しないでください。

❽ 補助具から注射器を取り外す

プランジャーヘッドから手を離すと注射器の後ろが自動で上がってきます。
最後に図のように注射器の後ろをつかんで、補助具から抜きます。
補助具は繰り返し使用できます。

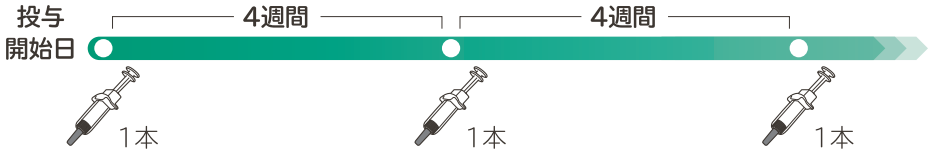


注射のスケジュール

〈 アトピー性皮膚炎 〉

生後6ヵ月以上の小児は、体重に応じて皮下注射します。

- **5kg以上15kg未満の場合：**デュピクセント®は4週間に1回、1本を皮下注射します。



〈 アトピー性皮膚炎及び特発性の慢性蕁麻疹 〉

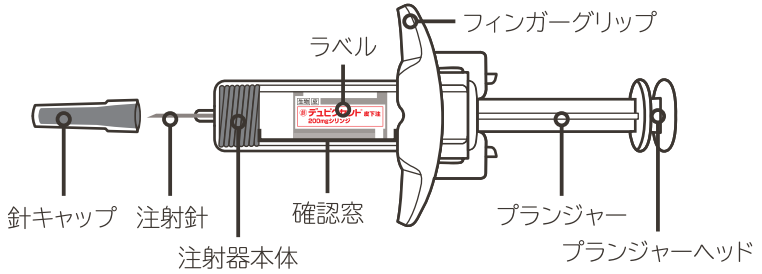
- **30kg以上60kg未満の場合：**デュピクセント®は投与開始日のみ2本を皮下注射します。その後は2週間に1回、1本を皮下注射します。



体重15kg以上30kg未満あるいは体重60kg以上の小児に投与する場合については、300mgペンまたは300mgシリンジの項(P4またはP12)を参照ください。

医療機関から受け取るもの

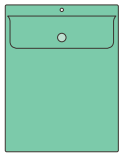
① デュピクセント®注射器



② 消毒用アルコール綿



③ 廃棄用容器



④ 治療日誌

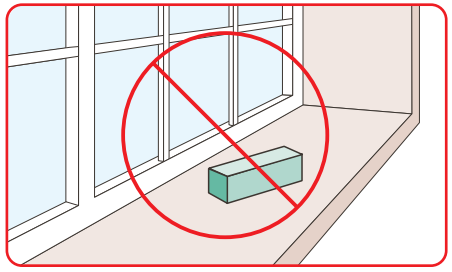


注射器の保管の仕方

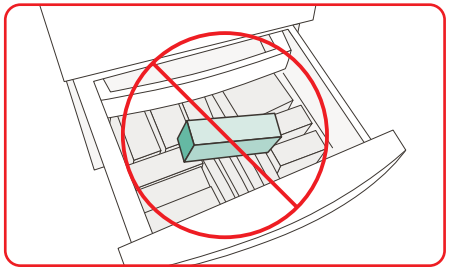
- 帰宅後は、デュピクセント®を**箱に入れたまますぐに冷蔵庫**（2～8℃）※で保管してください。



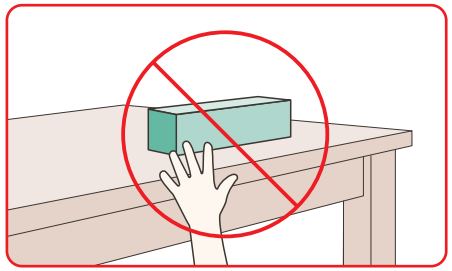
※注射液が凍ってしまう可能性があるので、冷気の吹き出し口付近には、保管しないでください。



高温、直射日光にさらさないでください。



冷凍庫には入れないでください。



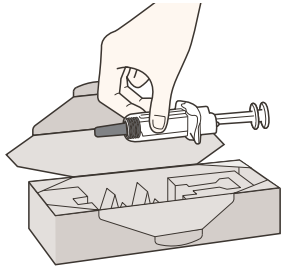
お子さんの手の届かないところに置いてください。

⚠ 注意
- 注射器を振らないでください。
- 注射器を温めないでください。
- 注射器を凍らせないでください。

注射前の準備

① 注射器を取り出す

箱を冷蔵庫から取り出し、
注射器本体を持ち、
箱から注射器を取り出します。



⚠ 注意

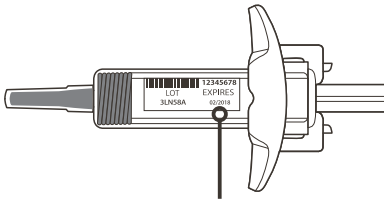
- 注射前の準備が整うまで、針キャップを外したり、プランジャーに触れたりしないでください。
- 固いところに落としたり、破損した注射器は使用しないでください。
- 針キャップが紛失している、またはしっかり取り付けられていない注射器は使用しないでください。

② 使用期限の確認、その他の準備

取り出したものが「デュピクセント®皮下注200mgシリンジ」であり、使用期限が切れていないことを確認します。

また注射に必要なものを用意します。

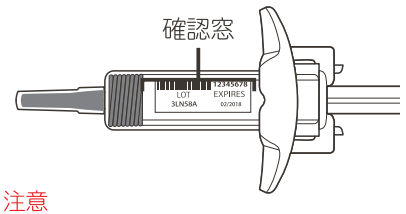
- ☐ 消毒用アルコール綿
- ☐ 廃棄用容器



使用期限

③ 薬液の確認

注射器の確認窓から、注射液が無色または薄い黄色で、濁っていないことを確認します。注射液中に気泡が見られる場合がありますが、問題ありません。



⚠ 注意

- 注射液が本来の色（無色か薄い黄色）と違う、または濁っている場合、注射液中に粒子などが見られる場合は使用しないでください。

④ 室温に戻す

注射器を平らな場所に置き、
室温に戻しておきます。
30分以上室温に置いてから注射します。



⚠ 注意

- 注射器は温めず、直射日光を避け室温に戻してください。
- 冷蔵庫から出した後は長時間放置しないでください。

注射する部位

■ 注射に適した部位は以下の3ヵ所です。

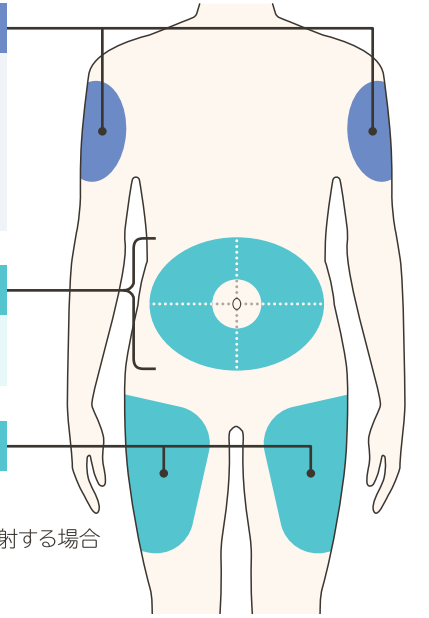
上腕部（二の腕）の外側

保護者が患者さんに注射する場合は、上腕部（二の腕）に注射することも可能です。
患者さんご自身が注射する場合は、この部位は避けてください。

へそ周り以外の腹部

へその周り5cmは避けて注射してください。

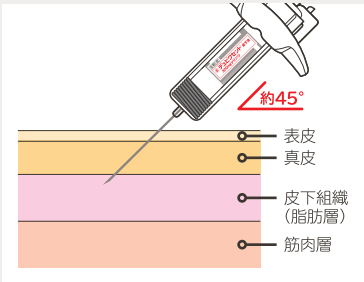
太もも



■ 患者さんご自身、または保護者が患者さんに注射する場合
■ 保護者が患者さんに注射する場合
（患者さんご自身が注射する場合は避ける）

⚠ 注意

- 衣服の上から注射しないでください。
- 12歳以上の子どもが投与する場合は大人の監視のもとに投与してください。
- 12歳未満の子どもに投与する場合は、保護者が投与してください。
- アトピー性皮膚炎の症状が重い部位、痛みがある部位、けがをしている部位、打撲や傷跡のある部位は避けてください。
- 前回注射した部位とは違う部位に注射してください。
- 腹部に注射する場合は、上図のように上下左右で4ヵ所に分けて前回の注射とは別の箇所を選んで注射してください。



「皮下注射」とは？

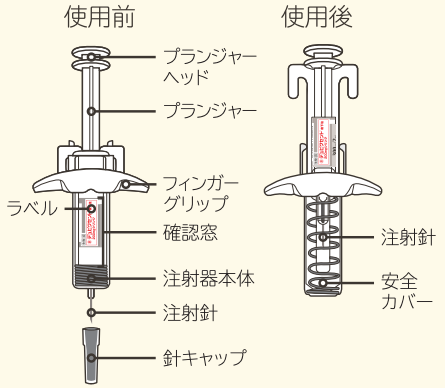
デュピクセント®は皮下注射という方法で注射します。

■ 皮膚の下にある皮下組織（脂肪層）に注射します。

■ 柔らかく少したるみがあるような部位を選ぶと注射しやすいでしょう。

注射の方法

各部の名称

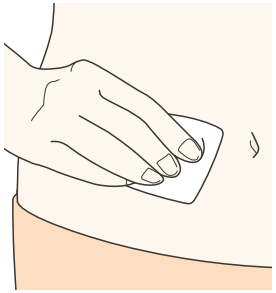


⚠ 注意

- プランジャーは絶対に後ろに引かないでください。

① 消毒する

両手を石鹸でよく洗い、清潔なタオルで拭きます。消毒用アルコール綿で注射する部位を消毒し、乾かします。

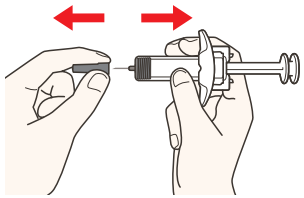


⚠ 注意

- 消毒後は注射部位に触れたり、息を吹きかけたりしないでください。

② 針キャップを外す

注射器本体の中央部分を持ち、針キャップを外します。

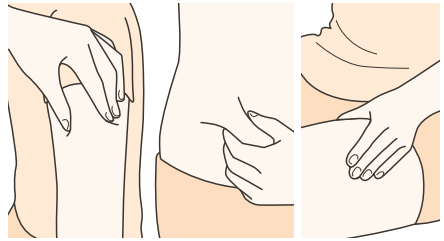


⚠ 注意

- 注射直前まで針キャップを外さないでください。
- 一度外した針キャップは再度取り付けないでください。
- 注射針には触れないようにしてください。
- 針キャップを外したら、針が他の物と接触しないようにし、素早く注射を行ってください。
- 注射器内に気泡が見られる場合がありますが、問題ありませんので気泡を取り除く必要はありません。

③ 皮膚をつまむ

注射針をしっかり挿入するために、注射する部位の皮膚をひだ状につまみます。



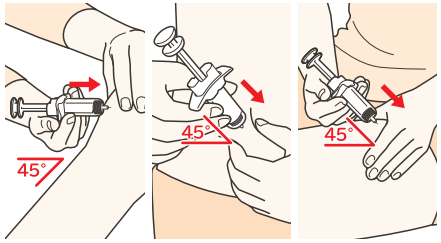
上腕部（二の腕）（ご家族のみ）　腹部　太もも

⚠ 注意

- 衣服の上から注射はしないでください。

④ 約45度の角度で注射針を挿入

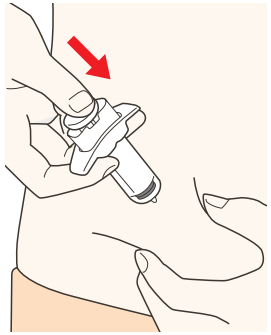
注射針をひだ状にした皮膚に約45度の角度で完全に挿入します。保護者が注射する場合、針を挿入してから、注射液を注入する前に、しびれがないか確認してください。しびれがある場合は針先を少し引いてください。



上腕部（二の腕）（ご家族のみ）　腹部　太もも

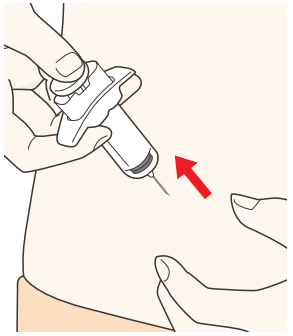
⑤ 注射液を注入する

皮膚をつまんでいる手を緩め、プランジャーヘッドを注射液がなくなるまでゆっくり押し込みます。注射の際に抵抗を感じても、問題はありません。引き戻すことなく、ゆっくり押してください。プランジャーヘッドは最後までしっかりと押し込んでください。



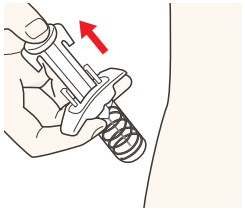
⑥ プランジャーヘッドを押したまま、注射針を抜く

プランジャーヘッドを押したまま、挿入したときと同じ角度（約45度）で、注射針を抜きます。



⑦ 注射後

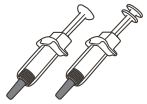
注射針を抜いた後に、プランジャーヘッドを押していた指をゆっくりと緩めます。安全カバーがスライドして、注射針が安全カバーに覆われます。出血がある場合は、消毒用アルコール綿で注射部位を軽く押さえてください。



⚠ 注意

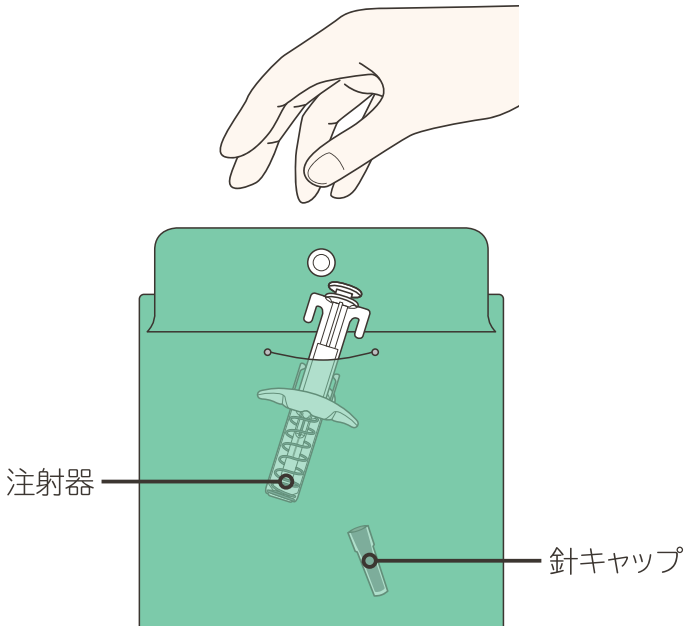
- 注射が終わった後も、針キャップは再度取り付けないでください。
- 注射後、注射部位をもんだり、こすったりしないでください。
- 注射器は再利用しないでください。

注射器の廃棄方法



注射器と針キャップの廃棄

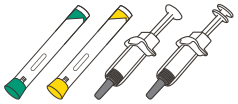
- 一度外した針キャップは注射器に取り付けないでください。
- 使用済みの注射器と針キャップは医療機関から提供された廃棄用容器に入れてください。
- 医療機関の指示に従って、医療廃棄物として廃棄してください。



注意

- 廃棄用容器がない場合は、蓋つきのビンや缶などの穴のあかない固い容器でも代用できます。
- 使用済みの消毒用アルコール綿は、各市区町村の収集方法に従って家庭ごみとして捨ててください。
- 廃棄用容器は、お子さんの手の届かないところに保管してください。
- 廃棄用容器は再利用しないでください。

治療日誌への記入について



忘れずに記入しましょう

注射が終わったら、治療日誌に、注射の日時、注射した部位を記入しましょう。
また、体調の変化などがあれば、それも記入しておきましょう。

自己管理に役立てましょう

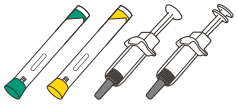
治療日誌の記録をもとに、次回の注射予定日や注射部位を確認して、注射のし忘れや、前回と同じ部位に注射してしまうことを避けるようにしましょう。

診察時に持参しましょう

診察時に治療日誌を持参し、主治医に確認してもらいましょう。
この治療日誌は主治医が、注射がスケジュール通りにできているかを確認し、注射の影響や病気の変化を把握するための大切な情報になります。



よくあるご質問



Q 注射予定日に注射するのを忘れてしまいました。どうすればよいですか？

A 主治医に連絡し、主治医の指示に従ってください。

Q 指示された本数よりも、多く注射してしまいました。どうすればよいですか？

A すぐに主治医に連絡し、主治医の指示に従ってください。

Q デュピクセント®と一緒に他の薬も処方されました。使ってもよいのでしょうか？

A 処方されている塗り薬や飲み薬、吸入薬などは指示された通りに使用しましょう。自己判断で中止しないでください。

Q 何時ぐらいに注射するのがよいのでしょうか？

A 注射時間に特に決まりはありません。
ご都合のよい時間帯に注射してください。

Q 体調が悪いのですが、予定通りに注射しても大丈夫でしょうか？

A 自己判断はしないで主治医に連絡し、主治医の指示に従ってください。

Q 注射予定日に旅行や出張が重なってしまいました。どうしたらよいですか？

A 注射予定日に外泊することが分かったら、あらかじめ主治医に相談してください。

Q 注射が痛いのですが、痛みをやわらげる方法はありますか？

A 注射液が冷たすぎると痛みを感じやすくなるため、しっかりと室温に戻してから注射してください。注射器は、200mgペンまたはシリンジの場合は注射の30分以上前、300mgペンまたはシリンジの場合は45分以上前に冷蔵庫から取り出しておきます。痛みが続く場合は主治医に相談してください。

Q 冷蔵庫から取り出した後、室温に戻した状態で使用し忘れた場合、次回の投与時に使ってもよいのでしょうか？

A 操作手順に従い、投与する際には毎回1回分のペンまたはシリンジを冷蔵庫から出して、室温に戻した後速やかに投与してください。なお、万が一冷蔵庫から取り出して室温に戻したペンまたはシリンジを投与し忘れた場合、外箱に入ったまま遮光された状態で25℃以下で保管されていた場合には、14日以内であれば使用できます。ただし、外箱に入れたままでも室温が25℃を超える環境にあった場合、あるいは、25℃以下で保管されていても外箱から出した状態で保管されていた場合には、使用しないでください。